

"Can Mamachari Save the Earth" -リーブス先生特別講義-

Practical Bicycling, Compact Neighborhoods, Public Transportation in Japan and Its Future

text_yasukawa

チェスター・リーブス先生による特別講義が10月4日(月)に開催されました。日本における実用的自転車文化「ママチャリ」の重要性・可能性を実感した、エキサイティングな講義でした。

Professor Chester Liebs' special lecture was held on 4th October. It reminds us the importance and possibility of "Mamachari" culture in Japan. It was a very exciting lecture.

D3 南 知賢



◀特別講義のポスター

▲講義後、出席者と笑顔で記念撮影

10月4日(月)チェスター・リーブス先生による特別講義が開催されました。先生が講義の傍ら日本で撮り貯められた写真からまるでまちを歩いているように感じられる、生き生きとしたプレゼンテーションでした。講義は日常では見逃しがちな瞬間をそのまま収めた写真から学生が糸口を捜し、都市を解釈して問題を討議していくというものでした。

環境という視点からも、生活に最も近い交通手段という点で

自転車の日常性には現在考えるべき多くのポイントがあります。また、歩行者との関係、自動車との関係、道路のデザイン、信号及びサイン等の都市の要素、また自転車の車両自体のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、状況と使用者に合わせることでできる積極的なデザインなど、都市設計の際の考慮事項に要求される多くのものを自転車の視点から見直してみる機会になるととても良い講義でした。ありがとうございました。

新メンバー自己紹介

Self introduction by New comers

10月から新たに都市デザイン研究室に加わった4人の新メンバーによる自己紹介です！

1. ドイツ バックスバイラー
2. まち歩き。街が描かれている映画。写真。友人と家族。
3. 谷中、吉祥寺、下北沢、京都
4. 都市デザインは統合的な仕事。様々な立場の考えを理解すると共に政治的な関りも恐れず行っていくべき。
5. 学生が実際のプロジェクトに関わっているからです。
6. 留学生と日本の学生との共同作業を楽しみにしており手助けができればと思っています。



特任研究員
Christian
Dimmer

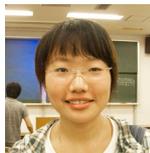
1. 大阪府
2. 旅行・茶道・ゴルフ
3. 東京都新島村
4. 「因果俱時」今日一日が将来につながる
5. 歴史や文化的文脈から都市・地域を見直したいから。
6. アカデミックな環境にブランクがありますが、徐々に学生中心の生活にシフトし慣れていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。



博士課程
森 朋子



助教
黒瀬 武史



博士課程
田乃 魯

1. 熊本県熊本市 / 大分県別府市
2. ずっとラグビーでしたが、今は。。最近は料理です。
3. サイゴン (ホーチミンシティ)
4. 心清事達 昔、北京で書道の先生が書いてくれた言葉
5. 会社も本当に楽しかったのですが、もう少しじっくり都市のことを考えてみたいと思ったから。
6. やるからには、全力で、楽しくやろうと思っています。大学にしかできないことに挑戦しましょう！

1. 中国 浙江省 舟山市
2. 漫画、旅行、水泳
3. 萌江
5. 日本の都市計画や建築にずっと強い興味を持っていて、理論と実践を学びたいと思ったから。また、先生の本を読み、興味を抱いたから。
6. 皆と旅行をして、日本の風景とデザインを体感したいです。

網走市旅プランコンペ入賞!

The Prize of the Competition of Sightseeing Plan in Abashiri! おめでとうございます!



見事入賞を果たしたポンサンさん。



▲授賞式後の記念撮影。最優秀賞は首都大学東京のチーム。

網走市主催の「全国大学生旅プランコンペ in 網走」に参加しました。企画書応募による第一次審査で、44 チームから上位 5 チームが選ばれ、網走市に招待されました。実地調査を踏まえた上で、9 月 11 日に開かれるプレゼンテーション審査会で最優秀賞等が決まります。

網走市に入る期間が建築学会と時期が重なっていることから、他学科の学生と

D1 ウィチエンブラディット ポンサンチームを組むことにしました。メンバーは留学生だけです。「自動車を使わず、公共交通や自転車を利用した環境に優しい旅」を提案し、大賞は逃したものの「網走市観光協会長賞」を頂きました。観光学専攻の学生が多い中、完全アウェイな気分での発表を経験しつつも普段と違った刺激を大いに受け、地方都市と観光のあり方を考える期間ともなりました。

日本家屋仮修理 in Australia Part 2

A Research of Old Japanese House in Australia



vol.125 での調査に引き続き、雨期に備えた仮修理の様子レポートです。

5 月の調査に続き、再びオーストラリアに行ってきた。クィーンズランド州遺産の日本家屋は、雨漏りがひどいため、11 月からの雨季に備えた仮修理が目的。

到着すると、まずはホームセンターでDPCという防水シートやコーキング剤などを購入。屋根の上ののぼり古い雨押さえを引っぺがしてDPCを張り、壊れた瓦の下にはDPCを敷き、小さな穴にはコーキン

グを打った。一方、大工の2人は鴨居を取り外し、長押をジャッキであげて、釣り束を梁に固定させ、開かずのふすまを開けられるようにしていた。作業中の2人を驚かせたのは、ふすまと家具の間に巣を作っていたポッサムという動物が飛び出してきたことだった。「一生忘れな



▲作業に向かう馬場さん



▲開かずのふすまを修理中

D3 馬場 美彦

プロジェクト報告

まだまだ暑い プロジェクトの秋

Now it has been hot! Projects in Autumn

夏の終わりを熱く飾った各プロジェクト。後半に向けて節目を迎えています。



鞆 TOMO-project プロジェクト



▲灯りのみならずよみせひろばの賑わい

建築学専攻 M1 内藤 康介

9月25日・26日の2日間、「ヨルトモ2010」を開催しました。今年度は街路や雁木のライトアップの他、茶屋蔵の公開、床板や行灯に絵を描くワークショップ、地元店舗の協力による「よみせひろば」等数々の企画を行いました。

埃まみれになりながら茶屋蔵の中を整理したり、当日未明までメンバー総出で行灯を作ったりと準備は大忙しでしたが、その甲斐もあって、当日は大勢の方に立ち寄って頂く事ができました。ワークショップに参加した子供たちや茶屋蔵を訪れた人、企画に協力して下さった地元の方々など、多くの主体を巻き込む事ができたのは大きな収穫だったと思います。

今後も、より多くの人と鞆の魅力を共有し、その将来像を考えていけるように、活動を進めてまいります。

田村 TAMURA-project プロジェクト



▲地図に載せた熱い想いを説明中

M1 西村 裕美

9月30日から10月1日にかけて「都路まちづくり基本方針」の提案に向けての中間報告会と第3回ワークショップとヒアリング・空間調査を行いました。

中間報告会では、これまでの調査結果を発表させて頂く

とともに、「人のつながりを活かし、新たな『つながり』を展開させる都路のまちづくり」という基本方針を提案させて頂きました。ワークショップでは、どこで何をすればよいか地図を使い話し合いました。アイデアの具体的なイメージを参加者全員で共有できたと思います。空間調査では、ワークショップのアイデアをどのように活用するかを考えながら調査を行いました。また東京からの移住者の方にヒアリングを行い、人のあたたかさやつながりが都路の良さだと改めて感じました。

Information

10月の予定

- 10月11日 佐原現地報告会
- 10月15～19日 研究室旅行@南京
- 10月19日 太田PJ「モノ・マチ」スクール

編集後記

安川 千歌子

寒いくらいに涼しい日もあれば、まだまだ夏と言わんばかりの暑い日も。はちやめちやな天気が季節の変わり目を体で感じさせてくれます。風邪だけはひかないように気を付けたいものです。もうすぐ研究室旅行! 正露丸を購入し、準備は万端です。次号は研究室旅行の記事がにぎやかに紙面を飾ってくれるはず! とうぞ期待!